

ひろば大代

NO. 300

大代公民館

H16. 7. 23

第19回 都市と ふるさとを結ぶ交流会

大代高山会

大代高山会では、お盆に帰省される皆さんをお迎えして、都市とふるさとを結ぶ交流会を開催致します。

今年8月14日(土)に日程も変更致しましたので、皆さんお間違いないく、多数ご参加頂きますようお願い致します。

一、日時 8月14日(土)

午後6時から開会式

一、場所 大代公民館・前広場

一、神楽 大江高山神楽社中

午後6時半～8時半

一、盆踊り

午後8時半～10時

みんなで作る広報誌

「ひろば大代」

400号に向けて

前館長 横手新治郎



「ひろば大代」300号の達成を町民を始め、読者の皆さんとともに喜びたいと思います。2年10ヶ月編集に携わってききましたので、舞台裏を少し書いてみたいと思います。

このような大台に到達出来たのは、町民を始め、ふるさとを離れても、何時も心にかけて協力頂いている、東京・関西高山会員や大代町出身の皆様のご協力があればこそと感謝しております。

編集に当たって、委員が、毎月18日前後に編集会議をひらきます。このときには、原稿が一応印刷された状態となっており、一字一句気をつけて読み、漢字の打ち間違い、かな送り、句読点などは、適切に入れてあるかなど詳細に点検します。その時、各々の知恵を出して修正しますが、時には辞典を取出して、どれが正しいのか検討し、思

案することも多々あります。書かれた方の意向が正しく伝わるよう、十分配慮しながら進めていきます。

次に翌月の記事は、どんな記事について、どなたに原稿を依頼するか、編集間近まで1ヶ月の行事などを、予測しながら決めます。お願いした方が快く引き受けて頂いたのが、継続している大きな要因でしょう。

また、記事が、一部の方や事務局の原稿だけでなく、小学生から高齢者までの方で作られているのは、市内にも広報誌がたくさんある中で「ひろば大代」の誇りとすべきところでしょう。

編集機器にも大きな変化がありました。中古のパソコンの寄贈があり、ワープロからワードにきりかわったのも、編集に大きな威力を発揮しています。原稿をフロッピーに保存して提出して頂く方もありますが、これは編集者には大変助かります。「コピー」「貼りつけ」と操作をすると、瞬時に所定の位置に原稿が移されます。遠方からの原稿もメールで送信して頂くと、同じようにあつという間に所定の位置に、原稿そのままが入るようになりました。

パソコンを使われる方が多くなると、打ち込む作業が少なくなり、どうしたら良く読んでいただけるかに、編集に重点が移っていくことになります。

写真などもデジカメを使うと、今、撮れた写真を貼り付けてみる事が出来、小さくしたり大きくしたりも自由になりますから便利です。

これまで通り毎月発行されると、400号は、8年4ヶ月先に迎えることになります。が、「ひろば大代」はどの様に变化しているでしょうか。又どの様な役割を果たしているでしょうか。情報化は、まだまだ進んでいくでしょう。地域の活性化と一人一人の生涯学習に役立つ広報誌となっていくことを期待したいと思います。

祝！三百号

市議会議員 木村幸司



昭和四十五年「つどい」として発行された公民館館報も、今回の発行を以て三百号到達とのこと、三百号に至るまで、館報発行に携わってこられました、すべての皆様に心より敬意を表す

るところでございます。過去に発行されました館報を見るにつけて、当時の風景が悲喜こもごもと綴られており、大代町の歴史書の様相を呈している、そんな思いがいたします。

第一号の発行時は原田館長様のように伺っているところですが、現在に至るまでの三十四年間、館長さんは変わっても、その意思を引き継ぎ、発行を続けてこられましたことが、何より評価されることと思えます。何事につけ、続けるということが肝要であることは、周知の事実でございます。三百号に至るまでのご努力は、いずれ実を結び、大きな花を咲かせることと信じて疑いません。今後も、「故郷の歴史書」として、また、今の時代に生きる私たちが、我が町を想う心を綴る、そんな館報であってほしいと思えます。

故郷を離れた先達の皆様も、故郷を懐かしく想い、館報の到着を心待ちにしておいでのように思います。三百号を通過点として、未来永劫、館報の発行が続きますことを願ってやみません。大代町情報誌・歴史書「ひろば大代」が益々発展し、館報をご覧になるすべ

ての皆様には幸多からん事を願っております。

さて、私の近況でございますが、「我が町を好くしよう」と言う金剛堅固な志を持って、今以上に研鑽に勤めよう、と心に誓う今日この頃です。

「ひろば大代」三百号によせて

東京石見高山会会長 楠 義見



この度「ひろば大代」が、創刊より二十五年を経て、三百号記念に遭遇出来たことを嬉しく思い、心よりお慶び申し上げます。

故郷を後にした者には、かけがえのない読みもので、さまざまな情報が、皆様のご協力によって毎回掲載されるので、ふるさとを身近に感じさせて頂いております。

今年、第二十回参議院議員選挙が行われたり、オリンピック発祥の地・ギリシャ・アテネ五輪が行われたり、紀伊山地の熊野霊場が世界遺産に登録されたり、梅雨がなく猛暑で悩んだり、ある地域での集中豪雨・竜巻による被

害等、国の内外で色々な出来事がありましたので、三百号は、より記憶に残ることとなるでしょう。

東京のお盆も、例年のない猛暑の内に終わりましたが、故郷のお盆行事が懐かしく待ち遠しく思っております。

また、東京石見高山会二十周年記念総会には皆様のご協力により「田植ばやし」で花を添えて頂ける事、私達一同楽しみにお待ちしております。

最後になりましたが、皆様のご健康と「ひろば大代」創刊三百号の更なる、発刊を祈念しお祝いの言葉とさせていただきます。

「ひろば大代」が語るもの

関西高山会会長 田中公道

記念特集号「ひろば大代」三百号発行おめでとうございます。

ひろば大代三百号、その創刊がいつだったのか私には定かでないが、毎月発行され続けたわけだから、単純に計算しても二十五年前から発行されていることになる。

四半世紀、この気の遠くなる時間と

そこに携われた多くの方々へのひたむきな熱意。

故郷を後にした私たちに送り続けられた「故郷からの熱いメッセージ」、そのメッセージによって私たちは何気なくアイデンティティを確認し、現在も「ひろば大代」によって故郷の言語、生活習慣、風景、そして味覚などを知覚、再認識してきた。

継続することの難しさを考える時、改めて今、その三百号発行に目を見張り、その偉業に感動し、心から尊敬と敬意を表したその一頁に、拙文を掲載させて頂ける幸せを感じている。

これからも世代を越えて五百号千号と引き継がれていく事を心より願っております。益々のご発展を心から祈念して、お祝いを申し上げます。



「ひろば大代」300号を迎えて

感謝感謝です

連合自治会長 竹島 修

早いもので、「ひろば」の編集委員になって2年が経ちました。この間、毎月原稿の依頼や編集に頭を悩ませ、

来月号はどうしようかと編集委員会の度に話していました。それでも案ずるよりも何とかと言いますが、毎月皆さんの協力のおかげでどうにか続けてこられました事を先ずもって感謝感謝です。それが今回、記念すべき「ひろば」300号発刊の節目を迎える事が出来感激にたえません。これも歴代公民館関係者の方はもとより原稿をお寄せいただいた町民の皆さんをはじめとする協力者の皆さんのお陰に他なりません。この時に「ひろば」の編集にあたるものとして、あらためて御礼を申し上げます。

この「ひろば」は、昭和45年に「集い」と言うタイトルで創刊され、当時は年1回発行されていきました。ちなみに当時私は、小学3年生でよく覚えていないのですが、大代町の人口は1208人もいたそうです。そして昭和55年、現在の「ひろば」と改名されて毎月発行されるようになり現在にいたっています。この間、大代町も過疎化の波に呑みこまれ、前平成12年の国勢調査では、人口が585人まで減少しました。

しかし、人口は減っても故郷を愛し

慈しむ郷土愛の気持ちは強く、東京石見高山会・関西高山会・大代高山会を組織し「都市と古里を結ぶ交流会」も、来年は20回の節目を迎えます。また地元をふり返れば中学校の焼失、そして統合、小学校の新築、大代パイパスの完成と色々な出来事がありました。

「ひろば」は、大代町のその時々を記録した歳時記であり貴重な記録です。大代の風土記とも言える『ひろば』をこれからも途絶えさせる事無く発刊される事を切に希望する者であります。読者の皆様のご協力をよろしくお願いいたします



「ひろば大代」三百号に寄せて

婦人会長 今田文子

「ひろば大代」三百号おめでとうございませう。印字も大きくなってとても読みやすく、ギフチョウやミスミソウ等大江高山の写真もきれいでよく解りますね。

大代町の広報誌であり小学生や各自

治会の方々の文章に出合えて嬉しく読ませてもらっています。

大江高山登山の様子とか、東京石見高山会や関西高山会の方々の原稿で両方の総会の様子を家で読み知る事が出来ます。毎月の行事予定も私にはとても役立つています。

婦人会活動は全て公民館でお世話になることが多いですが、ボランティアを中心に協力できる事は致しますのでよろしくお願い致します。

これからも「ひろば大代」の発行継続に頑張っていただきたいと思えます。

公民館報300号を記念して

寿会会長 泉 朋納

大代公民館報が今月で300号に達すると言う長い間よく継続されたもの。又その間これに携わって来た方々の努力と御苦労に感謝と敬意を表する一人です。

最近私は日常崇拝する神と仏についてその違いは何処にあるのか考えて来た。やはり歳のせいかもしれないと思

っている。偶々読んだ本の中で立命館大学の本郷教授は此の様に述べられていた。神は親父と思えばいい。時に怒り、時に喜ぶ。だから何か頼む時には御機嫌をとる。

昔の人は台風も地震も火山噴火も神の意思ととらえた。その様な事が起こらない様に定期的に祭を行うなど神の機嫌をとった。一方悟を開いている仏は怒らない、神罰はあるが仏罰はない。今でも厳しい寺はあるが古代中世は寺には酒を飲んで入ってはいけない事になっていった。

これに対し神社では御神酒を捧げる祭でドンチャン騒ぎをする。巫女さんに踊らせる。仏はそんな事は一切しない。神には玉串などの捧げ物をする。御神酒も一献捧げる。仏には捧げ物をしない。仏壇の花は綺麗な方が仏の側でなくこちらを向いている。仏に捧げたのではなく仏の徳を表しているのだ。もともと神は地域性の豊かなものだった。今でも全国大会に出場する時の必勝祈願は地元の神様にする。神はあがめる人に恵みを与える。仏はその地域にだけ慈悲を与えようと言う事はしない。

日本は千年以上も神仏一体が続いたがそれでもこれだけの違いがあるのだそうです。



永遠の愛唱歌「ふるさと」

前東京高山会会長 田中憲経

「ひろば大代」三〇〇号発行おめでとうございます。この記念すべき特集に寄稿参加できることを、心から嬉しく思います。

私の好きな歌はたくさんありますが、何かしている時ひとりでに口ずさんでいる歌というのは、何故か昔大家小学校で習った小学唱歌が多いのです。

今も覚えていいる懐かしく、心温まる唱歌の数々は、これまた何故か田舎の田園風景や人情の優しさを歌った歌詞が圧倒的に多いのです。

なかでも「うさぎ追いしかの山、小鮎釣りしかの川」で始まる「ふるさと」は、まさに私の生まれた大家の村そのものではありませんか。この歌を聴いたり歌ったりすると、古希を過ぎた今も涙腺が緩んで、自動的に故郷の山河

や町並みが臉に浮かんできます。

公民館の場所にあった大家小学校を卒業し、旧制大田中学校に入学のため親元を離れて以来、あつという間に六十年の歳月が過ぎていきました。

年とともに望郷の思いが増してきて、今年も永遠の愛唱歌「ふるさと」を口ずさみながら、帰省の日を楽しみに頑張っております。

「もつくり日本」の原点で

「心」の原点を思う

関西高山会副会長 曾根 幸市

発刊三百号記念誠におめでとうございます。貴紙に接すると大代町の出来事や婦人の方々の活躍、そして少年時代を過ごした大代の移り変わりが良くわかり、思わず望郷の念にかられます。今や私にとって貴紙は故郷の情報を知る重要な便りとなっています。

そんな貴紙も今年で創刊二十五周年との事、二十五周年の間には大変な御苦勞があった事でしょう。二十五年前と言え、世間では東京サミットや三菱銀行猟銃人質事件などの出来事を記

憶しております。その頃の私は、妻を亡くし子育てと仕事に忙殺される中、必死に頑張っていた頃です。

そんな私も関西高山会の副会長として十三年目を迎えました。今年も同じ郷里を共有する皆様方の協力があり無事に総会を終了する事ができました。

この場を借りて協力頂いた皆様方に御礼申し上げます。有難うございました。

故郷島根から大阪へ移り住んで今年で五十二年がたちました。ここで第二の故郷とも言える私の生活の基盤の地、大阪は東大阪市を少し紹介します。

東大阪市は文字どおり大阪の東方に位置しており、人口は五十二万人を超えます。近くには司馬遼太郎記念館があり、日本中から多くのファンが訪れております。

しかし東大阪市で全国的に有名なのは「中小企業の町」と言う事でしょう。最盛期には四万社を超え活気溢れる町でした。しかし今は長い間の不況で四万社以上の会社も半分ぐらいになっております。ただその生き残った会社の中には世界トップレベルの技術を持つ会社もあり、最近では「中小企業の技

術を結集し人工衛星を打ち上げる」と張り切る会社もあります。このような中小企業こそ「ものづくり日本」の原点と私は思います。

私はそんな東大阪で建築業の仕事に従事しております。二十五歳で独立し、店舗改装・建売住宅等住まいに関するありとあらゆる仕事に関わり、寝る間も惜しんで頑張っていました。そのおかげか人並みの暮らしをおくれるまでにはなりました。

そんな私も去年の暮れ病に侵され手術を受ける事となりました。入院中友人が置いていった一枚の写真が私を励ましてくれました。郷里高山の写真(原田萬里氏撮)です。写真を見て思う事は郷里での思い出、旧友の顔。「もう一度郷里に帰りたい」との思いが私の中で自然と強くなつて行くのを感じました。結果、長時間の手術にも拘わらず無事生還する事ができました。

六月六日の総会には皆様方と顔を合わせる事が出来、本当に楽しく過ごすことが出来ました。残された人生「人とのつながりの大切さ」又いくつになっても故郷は私達の「生きていく心の

原点」で有るという事を確認し、皆様方の元気な姿に接するため、一回一回を大事にこれからも頑張つてまいります。

私のふる里

関西高山会副会長 中本 弘

「ひろば大代」三〇〇号おめでとございます。ふる里をつたえるすばらしい情報誌「ひろば大代」・「婦人会だより」に心から敬意を表します。

諺に「継続は力なり」大代町の皆様が公民館を通じて熱い情熱の心を形にかえたものと感銘いたします。これを機会に印象深いことを若干申しあげます。

その一つは、ふる里をこよなく愛されている二人の方に出会ったことです。その一人は、関西高山会を設立した時に、その情熱にうたれ今もつて常にふる里大代を愛される田辺 孝氏です。

他の一人は、第八回関西高山会総会で偶然にお会いした原田萬里氏です。いずれの方も私が小学校時代の恩師でした。この二人の方に人生の先輩とし

て、今でもご指導ご鞭撻を受けています。最後に私にとってふる里は中学校卒業までの約十五年しか事実上は住んではいませんでした。しかし私のふる里はどこかと問われれば、大江高山のある大代町と胸をはって答えられます。そのふる里の情報を送つてくれるのが「ひろば大代」・「婦人会だより」であり、私の宝物の一つだと言いきれます。

どうかこの情報誌が、いつまでも私もども大阪・東京で住んでいる者には、一服の清涼剤の役割をしていることを認識され、今後ともよろしく願います。

共に育とう

大代町 原田 萬里



「継続は力なり」この格言を強く印

象づけられた一言。それは、横手前館長さんが、私との会話の中で次のように語られた時であった。

「(ひろば大代)も近く三百号になるけえし、その時には何か特集号みたいなものを作らにやあいけませんね」との言葉であった。

私の手許には昔の資料は無いが、一口に三百号と言うが単純計算でも二十五年を経過している。創刊当時は毎月ではなかったようにも思われるが、横手前館長もその息の長さに強く心を動かされた上での語りであったろうと私は思うのである。「ひろば大代」は町内だけを対象に発行されるのではなく、故郷を出て都会に定住されている人々へも情報を発信し、地域の今を伝える役割を担っているのである。

公民館の二人のスタッフは何時行っても、パソコンに向かってキーを打っておられる姿を拝見し、地域の情報の発信源として多忙に神経を使って居られるのを目にするのである。

又、その原稿を書く人とそれを読む人との心の交流が素直に受け入れられ、何とも云えない好感を持つのである。

次号はどんな内容であろうかと待たれる人も多分に居られることであろうと推測止み難しである。

故郷の風景は四季折々に変化するが、そこに住む人々は幾世代の時を経ても暖かい心の絆に変化はない。

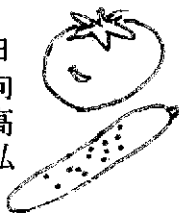
私は四十年という長い間教職に就いていたのであるが、その間の思いは常に「共に育とう」と云う心情を大切にしてきた。その地域に住む子ども、保護者、住民と心を通わせ共に向上していこうという希望をいだき、表題の言葉を額にしたため、校長室の壁に掲げて自分を励ましていた。

最近の「ひろば大代」を読むときそれを強く感じ故郷の温もりを思うのである。

今も「共に育とう」の額は捨て難く私の居間の入口に掲げているのである。「ひろば大代」の発展を祈念して止まないものである。

あれから34年

公民館運営委員長 日向高弘



最近、縁あって、中学生に田植え囉

子を教えています。芸能というのはとにかく先輩の真似をすることだと思っております。昨日のことも思い出せない私とは大違いです。

それでも、私達が中学生の時は、全国植樹祭が天皇陛下ご臨席のもとに三瓶山で開催され、そのアトラクションの一つとして田植え囉子を演じることとなったため、一年間毎日練習をしました。おかげでそれを体で覚えているため、今

日指導者として大きな顔ができていくわけですね。

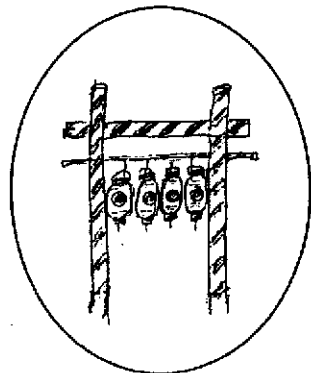
館報第一号は私が中学2年生の頃に発行された

十七夜祭 中学生による田植囉子



れ今日まで続いているというわけなのであります。これって、ちよつとすごいことだと思いませんか？

祭りの心



元館長 渡 吉正

今年も十七夜祭がやってきた。私の子供の頃は十六日の前夜祭から玄関先に提灯が灯され、町内には門（角材や竹材で鳥居形のアーチを造り、紅白の布を巻いて高張り提灯をぶら下げる）が五・六箇所も立てられていた。夕食をすませて提灯を灯し、家族連れでお宮参りをした。

町内は沢山の露店がガスランプを灯して並び、玩具屋、食べ物屋（桃は旬の物で必ずあった）、ところ天やかき氷屋は民家の縁側で腰かけて食べた。中には見世物屋が「ハブやマンガースの戦い」を演じて見せていた。

本祭十七日は学校（小学）午前中で授業が打ち切られ、学童は喜び勇んで帰り、祭りの馳走もそこそこにして町の方へ小遣いを握りしめて一目散に走

り出た。

昼過ぎからはお宮の境内で奉納相撲が催され、三時頃から御神幸式の御輿を担いだ青年たちが祭酒で威勢を付けて「チョイヤツサ、チョイヤツサ」と町を練り歩いた。

十七日と十八日は公会堂（正法寺前）隣の牛市場で市が立って近隣の村々から馬喰さん達が牛を追うて集まり、大層な人出であった。夜は公会堂で芝居見物、祭のご馳走を開いて皆楽しそうであった。

十八日は送り祭で、川上、柿田方面の若い青年男女が衣裳を着飾り、田植囃子を植松から打って出て、夕方遅くまで胴を鳴らす音が聞こえ、ようやく祭は幕を閉じた。

昔の祭は親戚縁者が集い、人口は一時的に膨らんで、大田の彼岸市を凌ぐ程の賑やかさであった。

今、祭典で一番困っている事は御輿を担ぐ人が居ないことである。最近の新聞紙上で、担ぐ人を千円の参加料を出して公募していた所があった。大家の山中でも担ぎに来てくれればよいのだが……。大家八幡宮の石段の上り下

り二五〇キロの大輿を担いで至難である。何とか軽量の物に替えることは出来ない相談だろうか。

最後に「祭の心」についてである。現在の大家地区は少子化と高齢化が進んでお宮参りの人も少なくなった。町中の露店の姿も消え、祭りの幟も本数をまったく減少して仕舞い、祭の風情が次第に薄れて来たことは淋しい限りである。

祭日にはせめても勤務や農事は休んで家族連れで祭に参加して頂きたいものである。

祭はお宮の神事（無事息災と五穀豊饒を祈願する）だけではないのである。町全体が祭を謳歌することである。賑やかだった昔の祭をもう一度呼び起こそう！

小さな幸せ



前連合自治会長 田辺恒信

「幸せは外にはなく、心の内にあるあまり理解できないかもしれませんが

幸せはけっして目標ではないし、目標であつてもならないし、さらに目標であることもできません。

それは結果にすぎないのです。」
という一節があります。

幸せは、求めて得られるようなものではない。結果として与えられるにすぎないと言っているのです。

生き方とか習慣とかは、意志によつて獲得できますが、幸せはそうはいかない、あくまでも心の状態をいうのです。それも若い男女の恋愛の幸福感のようなものではなくもつと持続した心の平安それこそが幸せの本質ではないでしょうか。それはどんなささやかであつても心を明るく楽しい人生を送りたいなら自分から明るくふるまうことも大切です。

普段は何気ない挨拶でも明るい声で交わすと気分が晴れ楽しくなりますよね。いらいらしている時、不安な時こそ明るくふるまうことは、幸せを感じるコツだと言えるでしょう。

誰しも長い間、世間や社会を鏡に見立ててその鏡の中に自分の姿を見てきた事と思います。

「外の自分」には見栄があり、無理して背伸びもしています。しかし、常に学ぶ姿勢を持ち続け見栄や背伸びの世界から自分を解放することで「内なる自分」が見えてきます。そこに目を向けることがとても大切ではないでしょうか。

自分の目で自分を見つめる嫌なところも含めて一切を受け入れる。すると内なる自分の中に気づかなかつた、良い部分や「可能性」という、いまだ芽を出していない、良い種が見つかるはずです。そのことが小さな幸せ。自分だと思えます。

ひろば三百号を祝して

元連合自治会長 高村 貢

ひろば三百号おめでとうございます。一言に三百号と言つても今までやってこられた皆様に感謝申し上げます。

三百号を機に編集を少し考えてほしい内容により表の方にするか、内にするかを打ち合わせするように望みます。

地区社協から、町内外の皆様には大変御協力いただき感謝申し上げます。

市の予算も少なくなり敬老会も今までの様な事にならないとは思いますが、町内の色々な人にお世話になり、楽しい敬老会になる様頑張りますので、よろしくお願い致します。

昨年マご奇贈頂いた子供みこし

今年も天候に恵まれ

ワッショイワッショイ!



十七夜祭にて

|| ホットな話題 ||

7月11日、農産物直売所・手打ちそば道場がオープン！しました。
大代町の活性化を図るため、地元産の農産物・加工品の販売をします。
そして隣に「しまね長寿社会振興財団の夢ファクトリー事業」により、高山そば道場が完成し、開店しました。
毎週日曜日に開店します。
尚、8月15日はお盆の為お休みです。

毎週日曜日やっています。

「よっちゃん菜さい」

高山の里直売所



にぎわう店内



そば道場店内



ぜひ「よっちゃん菜さい」！



そば粉100%
手打ちそば

|| お知らせ ||

○ テレビ放映決定！

日本海テレビで、8月15日(日)朝7時30分〜45分の「島根県民サロンの番組の中で大代ハートフルロード(バイパス花壇)の活動や開店日の高山の里直売所やそば道場等の様子が放映されます。皆さん是非ご覧下さい。

8月行事予定

- * * * * *
- * * * * *
- * * * * *
- * * * * *
- * * * * *
- * * * * *
- ▼ 14日(土) 都市とふるさとを結ぶ
交流会 午後6時から
- ▼ 23日(月) 連合自治会
- ▼ 24日(火) さくらんぼ教室



200号からのあゆみ (H8年4月～H16年6月)

年月	No.	ひろば大代	大田市・大代の出来事
8・4	201	戦後50年特集「戦争体験記」	「ピラたかやま」完成
8・5	202	新入生特集「びかびかの一年生」	木村悦子他 大代小地鎮祭挙行
8・6	203	母の日・父の日特集	三瓶ダム完工式・公民館長に市原仁郎氏
		自慢のお父さん	横 直人他 第5回関西高山会総会開催
		出合い	増田長之助 市消防線法大会大代分団三位入賞
8・7	204	関西高山会関連記事	中本 弘他
8・8	205	八反田ミニ敬老に招かれて	松井シゲノ他 第11回都市とふるさとを結ぶ交流会
8・9	206	大代にクマ現る	喜寿を迎えて
		喜寿を迎えて	松井土幸他 三瓶高原クロスカントリーコース完成
8・10	207	敬老施設訪問を終えて	谷口陽子 高山登山道草刈
		旬を求めて連載開始	田辺正義 町民運動会
8・11	208	草刈登山に参加して	森田輝男 石見銀山トンネル開通
		頑張った町民運動会	中垣一真他 第12回東京石見高山会総会開催
		孫	泉 文子 大代町文化祭・高山登山
8・12	209	文化祭を終えて	田辺幸子他 みつまた栽培グループ始動
9・1	210	新年のあいさつ	市原仁郎他
		ピラ高山一日体験記	森田義徳
9・2	211	丑年生まれの僕の抱負	谷口将人他
		みつまた栽培グループ動き出す	
9・3	212	ミニ福祉敬老の紹介	後藤マサエ他 祖式診療所完成
		福祉弁当雑感	高崎 章 市長に熊谷國彦氏3選
		猿の訪問	横手和男 大代小学校校舎完成
9・4	213	ピカピカの校舎にピカピカの一年生	岡田郁男 公民館長に渡吉正氏
9・5	214	社会人になって	森田才恵 市小学校連合運動会100回記念大会開催
9・6	215	父の日・母の日特集	市消防線法大会大代分団三位入賞
		めぐり来る「父の日」	渡 綾子他 第6回関西高山会総会開催
9・7	216	第6回関西高山会関連	渡 吉正他
		大代分団ポンプ線法大会3位	原田守男
9・8	217	孟蘭盆会について	松島浄忍 第12回都市とふるさとを結ぶ交流会
		七夕の願い 幼稚園	
9・9	218	小学校新築に思う	後藤フサミ 大田市消防団副団長に竹本謙氏
		都市交流に参加して	田辺正義 消防大代分団長に井谷英美氏
9・10	219	喜寿を迎えて	高崎 章 町民運動会
		四季折々の大江高山をカレンダーに	中本 弘他 高山登山道草刈
9・11	220	運動会 幻の1等賞 他	長谷保孝他 高山登山・大代町文化祭
		グランドゴルフ部頑張る	第13回東京石見高山会総会開催
9・12	221	盛会裏に終わった文化祭	柿丸寿枝他
		ふるさと会雑感 東京石見高山会	横手新治郎
10・1	222	新春を迎えて	高村 真他 市原市議3選
		私は寅年がんばります	日向 光他 新成人7名
10・2	223	投稿 元旦	原田万里
10・3	224	卒業生特集 中学校	笠井慎也他 公民館長に笹木光夫氏
		お元気ですか？	日向一美 大代小学校竣工
10・4	225	今年の公民館活動	笹木光夫 市立図書館新築オープン
10・5	226	小学校改築竣工にあたって	永井吉一 大代小学校竣工式
		春からわが娘も一年生	谷口直美他
10・6	227	小学校竣工式を祝って	渡利昭蔵 第7回関西高山会総会開催
		母の思い出	森 守 高山会環境保全活動に県より感謝状
10・7	228	福祉弁当を届けて	中垣貞義 国立大田病院を平成11年2月経営移譲
		関西高山会総会を終えて	中本 弘他 し 大田市立病院として開院で合意
10・8	229	都市交流を終えて	笹木光夫 第13回都市とふるさとを結ぶ交流会
		田植囃子17夜公演を終えて	高村一雄
10・9	230	敬老の日に 思い出	竹本浅市 敬老会
		施設訪問を終えて	渡邊寿雄 町民運動会

年月	No.	ひろば大代	大田市・大代の出来事
10・10	231	赤組初優勝に酔いしれて 草刈登山に参加して	井谷英美,他 中垣貞義 高山登山道草刈
10・11	232	東京石見高山会に参加して トラベルエッセイ連載開始	笹木光夫 第14回東京石見高山総会開催 縄文時代の埋没巨杉発見(三瓶町多根) 高山登山・大代町文化祭
10・12	233	文化祭を終えて 簡保ソフトバレーボール大会を開催して	飯田 徹他 渡 剛至
11・1	234	新年を迎えて	田中憲経 埋没林発掘現地説明会(三瓶町多根)
11・2	235	今年は僕の年 「大代バイパス」前へ進む	飯田祐輝,他 市原仁郎 大田市立病院開院
11・3	236	卒業生から一言(大田三中)	佐藤珠子,他
11・4	237	入園式を終えて 中学生になって	山根 裕 原田秀生 県立女性総合センターあすてらす オープン
11・5	238	小学校に赴任して 同好会・クラブ紹介 ゲートボール・ソフトボール・銭太鼓	多々納今子 市立病院最新MRI導入
11・6	239	地域の出来事 -田植えを終えて-	竹間初美,他 第8回関西高山会総会開催
11・7	240	ふれあい教室講師さんから クレアーさん・ケリーさん 望郷大江高山 関西高山会	中本 弘
11・8	241	都市交流初の試み運動会 盆踊りを終えて	飯田 徹 松井圭三 第14回都市とふるさとを結ぶ交流会 市原市議死去
11・9	242	故市原仁郎さんを偲んで 落語家来町!!	笹木光夫 敬老会・町民運動会
11・10	243	登山道草刈を終えて	森 守 介護認定審査会始まる 高山登山道草刈
11・11	244	町民運動会連覇の美酒 優勝チーム 東京石見高山会総会印象記	下垣芳明 中本 弘 第15回東京石見高山会総会開催 高山登山・大代町文化祭
11・12	245	挽きたて、打ちたて、湯がきたての 手打ち蕎麦を皆で食べよう	横手新治郎 厚生大臣表彰 援護事業功労者 泉 朋納氏
12・1	246	新年のご挨拶 二十歳になって	楠 義見他 野 康範,他 一万円札の会テレビ生出演 市立病院新館業務開始
12・2	247	見ました「紙幣の原料みつまたで町おこし」	中本 弘
12・3	248	これからについて 中学校を卒業して 竹炭焼をはじめました	原田順子 泉 朋納
12・4	249	ピカピカの一年生	山根ほのか他 三瓶浄水場完成吸水開始
12・5	250	今年の公民館活動 初めての代	笹木光夫 竹下敬子
12・6	251	関西高山会に参加して 父の思い出	室田昇三 渡利昭蔵 第9回関西高山会総会開催 韓国テジョン広域市長一行来市
12・7	252	拝啓21世紀様	松野 広
12・8	253	交流会を終えて	笹木光夫 第15回都市とふるさとを結ぶ交流会 三中吹奏楽部中国大会銀賞受賞
12・9	254	敬老会に招かれて さくらんぼ教室	渡利忠進・マサヨ 後藤マサエ 敬老会・町民運動会
12・10	255	運動会「50回大会」を終えて	和田 積 高山登山道草刈
12・11	256	文化祭を終えて 山頂のドラマ	日向高弘 原田萬里 第16回東京石見高山会総会開催 高山登山・大代町文化祭 「石見銀山遺跡」世界遺産暫定リストに登録
12・12	257	挨拶21世紀に向かって	高村 貢,他
13・1	258	巳年生まれのみよいごと	田中久好
13・2	259	卓球は結構おもしろい 笑いで涙を減らしたい	松井圭三 中本 弘 大代町卓球大会 木村幸司氏市議補選に当選
13・3	260	卒業生特集 卒業 大切なもの	後藤順子 西本弥生 市長選挙に熊谷國彦氏無投票で4選 笹木光夫公民館長死去
13・4	261	笹木さんへ	日向高弘 「石見の国大田、新観光計画」策定

年月	No.	ひろば大代	大田市・大代の出来事
13・5	262	わたしのおかあさん 幼稚園児インタビュー ふるさとの調べ	市内公民館でIT講習始まる 原田万里 市リサイクルセンター完成 市障害者支援センター開所 公民館長に横手新治郎氏
13・6	263	就任に当たって ポンプ線法を練習して 第10回関西高山会を終わって	横手新治郎 中垣義満 中本 弘 第43回大田市消防線法大会で 大代分団優勝! 第10回関西高山会記念総会開催
13・7	264	消防線法大会優勝!! IT基礎パソコン入門	井谷英美 横手いちえ 縄文杉を三瓶自然館に搬入
13・8	265	変わり始めた都市交流会 第16回都市交流会に参加して	横手新治郎 中垣智香子 第16回都市とふるさとを結ぶ交流会 全日本マウンテンバイク選手権in三瓶山開催
13・9	266	施設訪問を終えて 敬老の日インタビュー	森 守 高崎 緑,他 敬老会・町民体育大会
13・10	267	高山草刈登山に参加して 町民体育大会を終えて	竹間初美 和田 積 高山登山道草刈・BSE検査始まる
13・11	268	第17回東京石見高山会 作文コンクール県知事賞受賞 「おばあちゃんがいなくなってきがついたこと」	目黒絹枝 竹間祥吾 市議会議員定数削減条例可決 高山登山・大代町文化祭 第16回東京石見高山会総会開催
13・12	269	韓国料理教室に参加して 文化祭の思い出	三宅栄里子 森 守 第4次大田市総合開発基本構想策定
14・1	270	生きがいを持って心豊かに暮らせる町づくりを 新年のご挨拶	横手新治郎 田中公道,楠 義見 韓国テジョン広域市中・高生4人來訪
14・2	271	成人を迎えて	永井絵里,他
14・3	272	3年間の思い出 さくらんぼ教室	原田秀行,他 上代奈緒美 大田桜江線久利バイパス開通 石見銀山遺跡国史跡の追加指定告示
14・4	273	1年生になった末娘 新入学児童父母 連合自治会長に就任して	中垣昌人,他 田辺恒信 学校完全5日制開始 祖式・水上診療所再開
14・5	274	母の日に「私のお母さん」 「かぜをひいたお母さん」 どうぞよろしく	泉沙央里 山根ほのか 権原敏子
14・6	275	大江高山の自然を守ろう 大江高山ってすごいな 盛大な関西高山会総会に参加して	三島秀夫 横手あゆみ他2名 藤井房子 第11回関西高山会総会開催
14・7	276	「ふきのとう」の皆様ありがとうございました 関西高山会に参加して お嫁さんとやってきたお地藏さん	木村滋男 下垣喜久恵 渡利浩紀、良子 三瓶荘別館(四季の旅籠)オープン
14・8	277	都市交流会「ミニ運動会」に2度目の挑戦 皆さんよろしく!	横手新治郎 山根悦子 第17回都市とふるさとを結ぶ交流会 住基ネットスタート
14・9	278	乗合タクシー試行事業がスタート 喜寿を迎え平和を願って	窪田 忠 大代乗合タクシー試行事業がスタート 大田市・仁摩町・温泉津町合併協議会設立 敬老会・町民体育大会
14・10	279	秋晴れの一日 (町民体育大会) 大江高山の眺めは最高 皆さんよろしく!	谷口浩他 登山ノートか 山根千代美 高山登山道草刈
14・11	280	太い絆で結び合う高山会 地獄の旅で深めた交流 綺麗に咲かせよう! サツキ350本植えていただきましたか	御手洗朋子 森 守 日向高弘 高山登山・大代町文化祭 第18回東京石見高山会総会開催 後藤正氏「小さな親切運動」実行賞受賞 さつき苗木植樹350本
14・12	281	公民館活性化への期待 「大嶽城」悲話を児童が発表	横手新治郎 5・6年生 大田市・仁摩町・温泉津町合併協議会設立
15・1	282	年頭にあたって 新年の挨拶 今年は無年・私の年 環境という財産 子供たちに生きる力を	田辺恒信,他 田辺幸子 多々納今子 泉 朋記

年月	No.	ひろば大代	大田市・大代の出来事
15-2	283	成人式を迎えて思うこと 年男の決意と想いで	横 貴幸 中垣真義
15-3	284	思い出 一卒業- 私達の大江高山講座 ①	永井亜紀子他 大畑純二
15-4	285	おめでとう 父より 人生夢ありて青春	新入生父母 谷口俊二他 田中公道
15-5	286	雨の大江高山登山観察会奮闘記 登山道の草刈に感謝 思いつくがままに	-登山関連- 橋本順子他 飯田 徹
15-6	287	大代町の皆様へ 大代小学校に赴任して 関西高山会総会を終わって みんなで高山のギフチョウを保護しよう	吉原光義 川神厚子 木村滋男他2名 伊藤 宏
15-7	288	三中生徒のそば打ち体験の感想 子供たちと共に こどもみこしと田植ばやしで にぎわった夏祭り	三中生徒 高崎 緑 山根祐介 横手昌太
15-8	289	田舎と都市 継続は力なり 感激・感動・感謝の心 私達の大江高山講座 ⑤	木村幸市 中本 弘 井上雅仁
15-9	290	敬老会特集 88歳を迎えて 喜寿を迎えて 私達の大江高山講座 ⑥	佐藤茂里江 荒本惠宗他 井上雅仁
15-10	291	祝・黄組優勝! 高山登山道草刈 頂上の登山ノートより	竹島 修 横田美恵子 山根英雄他
15-11	292	大代バイパス 大江高山2003 昔を思い出してきねつき餅で交流	谷口あかね 長谷和孝他 横手新治郎
15-12	293	高山の見えるバイパス峠 新しい道を行く 特集*写真で振り返る1年	渡 吉正 原田萬里
16-1	294	新年のご挨拶 安全な「まち」大代	田辺恒信他 神西英夫
16-2	295	成人式を終えて 「申」年に願うこと 50年前のこどもたちを想う 一万円札の会 優秀賞受賞!	日向 望 熊谷徳夫他 中本 弘 藤井房子
16-3	296	卒業生に聞く 卒業 夢の中の夢 秋の高山登山イズモコパイモの消息 大江高山登山の感動	武田祐亮 中垣江梨他 月森章子 影山 満
16-4	297	退任の挨拶 入学おめでとう 目標をしっかりと持つ 貴重な大江高山の自然環境を守ろう 大江高山に登って	横手新治郎 松井圭三他3名 横手あゆみ他 川村淳人
16-5	298	連合自治会長になって どうぞよろしく 大江高山の保護活動の必要性他 詩を詠んで感じた事	竹島 修 三島大吉郎、清野健也 井上雅仁、伊藤 宏 中本 弘
16-6	299	関西高山会に出席して 歩け歩け大会体験日記 父の日母の日特集 真っ赤に熟したさくらんぼ	山根金造他 中垣昌人 和田吉生他4名 後藤マサエ
			市個人情報保護条例制定
			春の高山登山自然観察会 「アイ・ラブピース」大田市ロケ4/16~5/18
			三瓶小豆原埋没林公園オープン 石見銀山大森郵便局開局130年記念式典
			吉原光義氏より子供御奥寄贈 第12回関西高山会総会開催
			五十猛灯台50周年記念一般公開 出雲市古志コミュニティーセンターより視察に来町
			第18回都市とふるさとを結ぶ交流会
			敬老会・町民体育大会
			高山登山道草刈
			高山登山 第19回東京石見高山会総会開催 大代町文化祭・大代バイパス開通式 1万円札の会品評会で優秀賞受賞
			春の高山登山 自然観察会
			大代の春の自然を食べる会
			第13回関西高山会総会開催 ハートフルロード花壇苗植え